

第1回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成29年5月13日（土） 14時～16時
- 開催場所 我孫子北近隣センター（並木館）
- 参加者 24名
- 出席者 星野市長、川村総務部長、大畑企画財政部長、四家市民生活部長
渡辺環境経済部長、大谷建設部長、渡辺都市部長、他管理職13人

■懇談要旨

市民：高齢者について要望させていただきます。私の近所でも一人暮らしの高齢者が多くなっています。その方たちの話を聞きますと、困っていることの第一位に、「3度の食事を作っていくことが難しくなっている」ということです。そこで1日1食でも学校給食のようなシステムを構築していただければ欠食がなくなって、大きく貢献でき、喜ばれると思うのでぜひ行っていただきたい。

市長：我孫子市も高齢化率が進んできています。65歳以上で29%、75歳以上で13%を超えています。75歳以上を超えられるとどうしても要介護状態の方が増えていきます。毎年6,000人の方が要介護認定を受けています。要介護状態が増えるにしたがって老々介護となり、いずれは残念ながらどうしても一人となります。その中で食事は、特に口から食事をとることは大変重要だと考えます。食事の介助の介護保険制度の中では訪問系と施設系があります。この2つを合わせながら食事の介護があります。介護保険の対象になるのか状況を相談する場所として、高齢者なんでも相談室があります。我孫子地区も増えてきたことから相談日を増やしたりしていますので、ぜひ利用してください。

司会：市の制度で配食サービスといった制度があります。高齢者のみの世帯の方、介護認定を受けていてもいなくてもサービスを受けられることですので、ぜひ高齢者なんでも相談室に相談してください。

市民：我孫子4丁目の調整池上部の公園について、防犯カメラを設置したらどうかと自治会の中で意見がありました。今、市内の公園で防犯カメラを設置している公園があるか質問します。

市長：公園に設置はしておりません。行政が設置しているのは、小中学校・保育園幼稚園、そして、今は、駅周辺南北側に設置を進めています。各自治会では通学路を

中心に設置しています。設置は1/2補助しており、通学路に設置の場合は警察と協議して、より抑止効果のある場所のアドバイスを聞いて、有効な税金の使い方を考えて順番に設置しています。

- 市民：①防災無線の件、以前より聞きやすくなりましたが、難聴の母には何を言っているのかわからないです。緊急時の対応方法をいろいろ話し合ってもらいたい。
- ②並木から、つくし野の水路の工事が毎年不定期に1回行っていますが、夏の蚊が発生する前後2回やってほしい。
- ③市民バスの利用料が100円の時はやかったが、150円に値上げになって、本数を1時間に1本という形で増やしてもらえると助かります。
- ④鈴木屋さんのトンネルの事ですが、もう少し通りやすくしてほしい。
- ⑤タクシー券についてですが、老人の方に対して病院に行ったりするなど、いろいろと経済的負担も大変なので、よろしくお願ひしたいと思います。
- ⑥バスの件で市役所の坂の上まで行くバスを増やしてほしい、行政サービスセンターがあるというが、いざというとき市役所まで行って早く手続きしたいと思うので、市役所まで行けるバスが市民バスでも必要だと思いますので、よろしくお願ひします。

市民生活部長：①情報伝達の方法として、防災無線を活用しています。市内80か所の防災無線をアナログからデジタル化して聞きやすさも上がったと思っています。しかしながら音ですので、風向きや最近の住宅は気密性が高くて聞きにくいことは伺っています。市としましては、それを補完するため、テレホンサービスを行っています。無線が鳴っていると気が付きましたら利用していただければと思います。パソコンを利用できる方は、市のホームページで確認することができます。また、携帯電話をお持ちの方には、メール配信サービスをしています。登録をしていただきますと、放送と同事にメールを配信して、確認できるようになっています。ぜひ、これらをご活用してください。

建設部長：②天王台水路の清掃については、我孫子市内にはかなりの数の水路があります。年2回できることは理想ですが、現在は溜まっているところを効果的に清掃しています。④並木隧道の階段は、鈴木屋さん側が25%で、自転車が通れる勾配となっていますが、北側は改修前が54%で急だったものを47%に改修しました。これ以上は、踊り場を高くできない限界となっています。現場では自転車を押して通

行していることは承知していますが、それらの問題を解消するための、改修となる
と用地などを含めて JR と協議したりしなければならないといった状況です。

市長：③あびバスは、坂東バスに委託して運用しています。民間バス事業者が赤字と
なる路線に市が赤字部分を補てんをして、実施している事業です。一番補てん額の
低いところで約 500 万円、一番多い路線で 1,000 万円、平均 800 万円を毎年税金で
補てんしています。100 円が 150 円となった料金については、坂東バスの最低金額
も 150 円だからです。赤字路線を坂東バスに補てんしているわけですから最低の
150 円をお支払いいただくことは妥当だと思っています。また本数を増やすとい
うことですが、1 人の運転手によって運行しています。ということは、距離を短くす
るか、運転手を増やし台数を増やすといったことが必要となりますが、これにはさ
らに経費を増やさなければなりません。ということは、さらに補てん額を増やすこ
ととなります。そういった点をしっかり踏まえて、それぞれの路線で見直しをする
時にも調整させていただきます。タクシー券ですが、これは 70 歳以上の高齢者の
免許証自主返納者のための話でして、そのほかの方には、すでにスタートしている
福祉タクシーの制度がありますので、今回のタクシー券の話とは別に切り離して
考えてください。坂道を上がって市役所までくるバスは走っていません。現在のバ
スが正面を通過することはスペースがなく、通れません。ぜひ、我孫子駅前の行政
サービスセンターで出来る業務は、サービスセンターを利用してください。また、
福祉関係は、坂を上がらずに西別館で手続きすることができますので、よろしくお
願いします。

市民：高齢化 75 歳以上の方が 13%ということですが、要介護認定を受ける方が毎年
6,000 人ですが、その中で、新しく増える方は何人ですか。

市長：毎年審査をしているのは 6,000 人程度です。新規が何人かは把握していません
が、たしか数百人程度だと思います

市民：年々高齢化が進んでいるわけですが、市の財政がどういう状況なのか。健康寿
命はどうなのか。全国平均と比較していいのか、悪いのか。5 年後、人口推移はど
のようになっているのか、教えてほしい。市民税は、市民に返しているとの話があ
りましたが、どのように考えているのかお示しいただきたい。

企画財政部長：今日は人口の細かな推計資料は持ち合わせていないので、後ほど報告
させていただきます。

市長：我孫子の人口のピークは、平成 27 年度にピークが来ると推計していましたが、残念ながら平成 23 年の震災によりその時がピークで、その後震災の影響で減少していました。当時は我孫子から引っ越していく方が転入者を上まっけてバランスが崩れていました。現在は転出者・転入者のバランスはとれて人口の均衡がとれているところです。我孫子市は自然減で人口減となっています。高齢化が進む中で亡くなる方が 1,200 人、生まれる方が 5 年連続して 1,000 人を切っています、去年は 800 人ですので、400 人程度が自然減となっています。要介護認定を受ける方が 75 歳以上が圧倒的です。その方々が 17,000 人です。小・中学生の総数が約 10,000 人弱です。約 7,000 人が高齢者のほうが上まっけています。要介護認定になる原因の 25%が脳血管障害です。脳卒中・脳梗塞このため 5 年に 1 回脳ドック検診を受けていただくよう補助制度がありますのでぜひ受けてください。病気が見つければ、その後診療は健康保険を利用してできます。次に多いのが認知症です。これを合わせますと高齢者の約 4 割の方が要介護状態になります。この 2 つの病気が予防できるのかが我孫子市でも厚生労働省でも課題です。この割合は厚生労働省が発表している数値とほぼ同様となっています。健康寿命については我孫子の場合、男性 81 歳女性 87 歳（四捨五入してますが）平均余命についても厚労省が発表している数値とここ数年比べてみてもほぼ同じ状況ですので厚労省発表の数値が我孫子の数値とと思っていただいてもいいのかなと思います。要支援の状態が実際に健康なのか不健康なのか厚生労働省の数値と子の方々も含めると同じ割合になります。

市民：そういったところで高齢化が進んでくるので、市の財政は将来 5 年後どのように見通しているのか。

市長：我孫子市民は他市に比べて可処分所得が多い方がたくさんいらっしゃいました。我孫子の税収の半分は個人市民税でした。我孫子には大きな企業がない中で、そういった方が退職していくことで個人市民税が減っていきます。個人市民税と民生費が今年度は同じくらいとなって来ました。今後は、社会保障費が増えていく中では、固定資産税などをあてていく形になると思っています。市内 19 校で 1 万人の子どもたちがいますが、将来 20 年後 5,500 人と見込んでいます。そんな状況の中で、これから 19 校分の校舎を確保維持していくことは難しい。そのためすべての公共施設床面積全体で 20%削減して統廃合を含めて進めていく計画を立てています。

司会：第6期の介護保険事業計画が平成26年から29年まで計画が立てられています。3年ごとにローリングをしています。この計画書の中にご質問の要介護認定者の推移などがまとめられています。高齢者支援課・なんでも相談室にお尋ねいただければ資料をご覧になることができます。

市民：天王台南地域の地域会議の取り組みの紹介がありました。私どもの地域でもカラス被害で困っているところです。地域会議の取り組みで自分たちの地域は老齡化が進んでゴミステーションの管理ができないため、クリーンセンターにステーションを返納したところもあります。市の方では各地区の地域会議でいろいろなことを提案していくことになるが、そのことについて市ではどのように考えているのか教えてほしい。

市長：天王台での地域会議でのまとまったものを、ふれあい懇談会に多くの自治会の役員さんが出席されることから、資料として紹介させていただきましたが、すべての自治会が同じようにできるとは思いません。それぞれの地域に合った形があると思っています。例えば自治会の中で2・3か所テスト的にやってみて、その中で検討していただければどうかなと思っています。そのうえで自分たちの地域にあったやり方があるのではと思っています。今回は天王台のパターンをお知らせさせていただきました。他の事例が知りたい場合は、市民活動支援課に連絡いただければ、市内の取り組みや他市の取り組みを紹介できますのでよろしくお願ひします。同じ課題を持っているが解決方法は様々あると思っています

市民：税込確保として、ふるさと納税が出ているが、28年度いただいた金額・件数は、どのくらいか。また、出ていった金額はいくらか。HPを見てみますと返礼品は出ているが、内容が掲載されていない。総務省からは3割と縛りがきつくなってきているが、その辺を含めて説明いただければと思います。

市長：ふるさと納税額は、我孫子市を含めて都市部は税込減です。平成28年度は421件・847万円、出の方は、1,720件・6,700万円です。ふるさと納税は、その町にお世話になった、あの学校を直したい、道路をよくしたいといったことから、本来あるものであると思っています。今は、返礼品目当てのふるさと納税になってしまったのは、本来の形とは思っていませんし、残念です。総務省からの通知があり、今年度6月30日以降の我孫子市民からのふるさと納税には、返礼品は出さない事となりました。我孫子市としては、緑の基金や文化財保護基金など様々な基金を作っ

ており、寄付をすることができますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。
市民:町によっては、返礼品をやめたところがあります。直江津では大火災があつて、その時ふるさと納税が増えて、その善意で町が活気づいたというニュースがあつたもので、我孫子市も発信の工夫を凝らした知恵を出していただきたい。

市長:我孫子の場合は基本的にふるさと産品が返礼品としてあります。今年、伊勢で行われた大会で、メヌエットさんと福一さんが出品され、メヌエットさんのレモンバームが2,200点応募品中、見事に農林水産大臣賞として3位になりました。早速ホームページなどで紹介したいと思います。また、返礼品に追加したいと思います。これからは、我孫子のお土産として知ってもらえるもの、使えるものをふるさと産品として登録していただきたいと思います。また、今年度は手賀沼花火大会の棧敷席を市外の人向けに返礼品として使えるよう工夫していきます。

市民:元気なシニアの方が多いと思いますが、その雇用とか企業誘致の事とか企業としては時間単位で仕事をして欲しいという話を聞いています。また、主婦層が多いので、その雇用についてもあると思いますが、市の補助の仕組みは無いと聞いています。企業誘致・企業立地などハードルを下げ進めていただきたいと思いますが、現在行っていることを教えていただければと思います。

環境経済部長:駅周辺の空き店舗を活用してほしい。賑わいも含めて駅周辺に必要ということで、市では改修費用と賃料も含めて1年間ですが100万円の助成があります。また、昨年からスタートした賑わいを持たせるだけでなく、学習塾などでも空き店舗を活用する創業者に対してテナント料の1/2の補助を進めています。シニアの方の雇用は、具体的にいくつかのコンビニと協定を結んで短時間パートを市内のコンビニで実施しています。我孫子駅南口に職業相談室も設けています。そういった形で雇用の拡大をしています。

市民:国道356号の鈴木屋さんから船取線に出るまでの間、道が狭くて散歩するのに非常に危険です。前に相談したときは県道だから我孫子市ではどうにもならないといったことでしたが、我孫子市として何か安全性を考えて要望を出せるのなら努力してほしい。

市長:あそこの課題は2つあると思っています。国道356号は、千葉県が管理する道路です。県だけで解決できる問題ではないとも思います。以前に寿自治会長と一部でも話がまとまれば工事してもらいましょうかとしたが、まとまりませんでした。

昔からある道路で、現状の歩道が高いところや低いところに合わせて家を建て替えをした方、各家の玄関と道路への取り付け高さがバラバラなことから統一的に工事することは、段差が生じるため地域に暮らす人たちの同意はこれまで得られていません。また、実際の工事は県が行うわけですが、その着手のお願いもしなければならないことも理解してください。交渉はしてきたが今はそういう状態です。

市民：歩道と車道にある歩車道ブロックをなくして、平らにして広く使えるようにならないか。

市長：子供たちの通学路としても利用しているところで、歩行者の安全を確保している意味からも現状で、あのブロックをとってしまうことはできません。段差になっていない歩車道に子どもたちが歩いていて、車が後ろから突っ込んでしまっている事故があることも現実です。なかなかそう簡単に解決できることではないと思います。

市民：2点あります。1点目は、並木小とわんぱくまる広場の6号との間の民地に最近塀ができたことにより、中に連れ込まれたらどうしようもないと思いました。そのことで危険だと思い並木小学校に話したところ、心配しているとのことでした。何とかしてあげることはできないでしょうか。2点目は、最近新木駅がバリアフリー化された駅舎に代わりました。市内の駅で我孫子駅舎が取り残されています。ぜひ早く実現できればと思います。完成の時期はいつごろか教えてください。

都市部長：わんぱくまる広場わきの私有地には、資材置き場があって、そこにフェンスが出来ました。確かに連れ込まれなどしたらという心配はあります。資材置き場ですので、子どもたちが中に入ってけがをするなどの心配もあることから、安全性も確保していかなければならないと思っています。公園の立場から点検していきます。

市長：我孫子駅につきましては9年ほど前に市長になったときに、まず我孫子駅を改修してそのあとに新木駅と考えていましたが、周辺の住民の方々や議員さんも含めて反対の声が大きくなり当時は断念しました。新木駅が完成したことから、昨年12月にもう1回我孫子駅の改修についての協議を再開したところですが、期間は前回は協議が整うまで2年かかりました。いずれにしましてもこれからということです。